



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
（奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 流行感染症情報：感染性胃腸炎



（調査週）平成 25 年 第 2 週 1 月 7 日（月）～1 月 13 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	6.86	→～↓	→～↓	→	→～↓
2	インフルエンザ	4.56	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	水痘	0.91	→～↓	→	→～↓	↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.89	→～↑	→	↑	↑↑
5	RS ウイルス感染症	0.51	→～↓	→～↓	↓	↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は270例で、前週報告の126例から急増。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤RSウイルス感染症の順。インフルエンザの報告数（105例）は、急増。感染性胃腸炎の報告数（117例）は、ほぼ倍増。A群溶連菌咽頭炎の報告数（13例）は、増加。水痘の報告数（14例）は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（9例）も、やや増加。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；46例、郡山HC管内；59例の計105例、定点当たりの報告数は3.89だった。基幹定点からの報告は、奈良市HCおよび郡山HC両管内ともになかったが、眼科定点からの報告は、郡山HC管内より流行性角結膜炎が2例あった。

（村井 記）

県北部外来状況 外来患者数は正月明けで多くない。感染性胃腸炎は10才以上成人まで多くなっているが、小学生以下はほとんど無くなっている。水痘が流行しかけ、RSウイルス感染症が時にみられる。インフルエンザは徐々に増加してきた。迅速検査ではA型が大部分で、精密検査ではAH3N2の報告をうけている。

(矢追 記)

県中部地区概況 報告数は、128例から255例と急激に増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、インフルエンザ、水痘、A群溶連菌咽頭炎、RSウイルス感染症・咽頭結膜熱の順であった。感染性胃腸炎は、71例から96例と横ばいであり、インフルエンザは、23例から119例と急増している。定点当たりのインフルエンザ患者の報告数は、5.41と県内で最も高い値を示している。眼科定点からは、流行性角結膜炎5例（桜井保健所より4例、葛城保健所より1例）の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。

(高木 記)

県中部外来状況 外来数は多くない。今週になってからインフルエンザが急増。学童を中心に次第に幼稚園児に派及してきた。殆どA型であるが、内科でB型の両親と子どもの家族3例があった。いずれも軽症。感染性胃腸炎は減少傾向であるが、ノロ様の嘔吐例が続いている。ロタはない。その他水痘が少し続いている。

(岡本 記)

県南部地区概況 報告数（第1週→第2週）は66例→72例と増加。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（4例→27例）、①感染性胃腸炎（40例→27例）、③RSウイルス感染症（8例→7例）、④A群溶連菌咽頭炎（4例→4例）、⑤水痘（3例→2例）、⑤流行性耳下腺炎（4例→2例）、⑦咽頭結膜熱（0例→1例）、⑦突発性発疹（3例→1例）、⑦流行性角結膜炎【眼科定点】（0例→1例）であった。

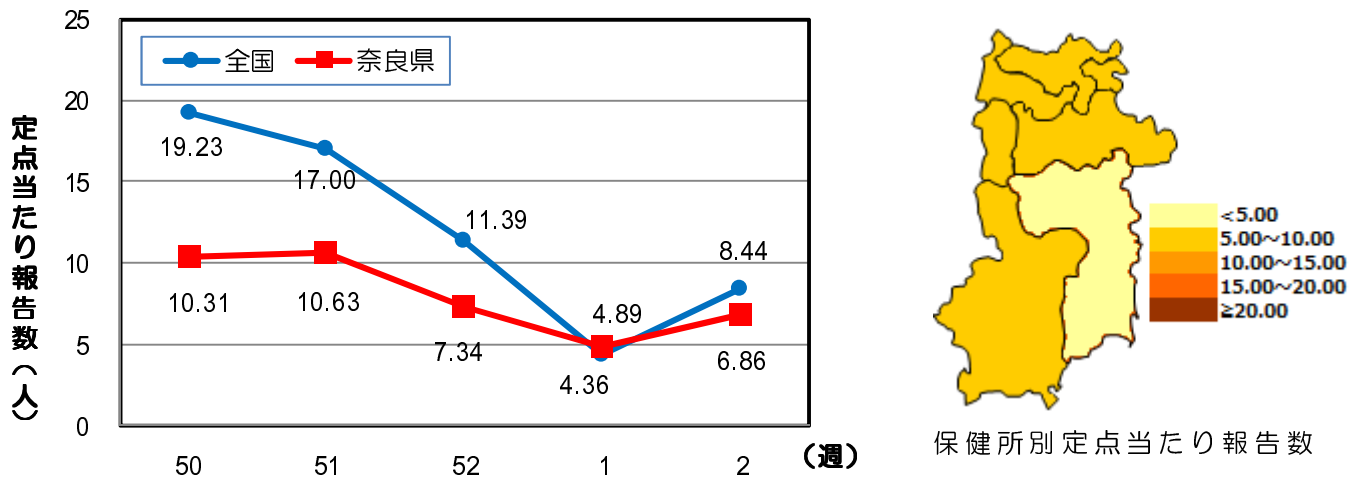
(柳生 記)

県南部外来状況 外来数は横這い～やや増加程度。第2週になりインフルエンザが出始め、連休明けの今週から急増している。全てA型。成人、中高生から小学生、保幼へと拡がりつつある。母親から乳児への例もあった。ノロと思われる感染性胃腸炎もまだ多い。（昨年5月から7月の感染性胃腸炎で保環研にウイルス検査提出陰性例で追試の結果、数例でサポを同定したとの報告があった。いずれも幼児で、数回の嘔吐と下痢（濃ベージュ、クリーム色）、発熱なしであった。）鼻汁、喘鳴のRSV感染症も引き続き認めるが重症例はない。マイコプラズマ感染症、アデノウイルス感染症、流行性耳下腺炎、水痘なども流行が見られる。

(山本 記)

《流行感染症情報：感染性胃腸炎》

第2週の奈良県全体における定点あたり報告数は6.86（報告数240）と、前週に比べ増加しました。全国値も8.44と、前週より増加しました。



感染症情報センターホームページアドレス

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm

